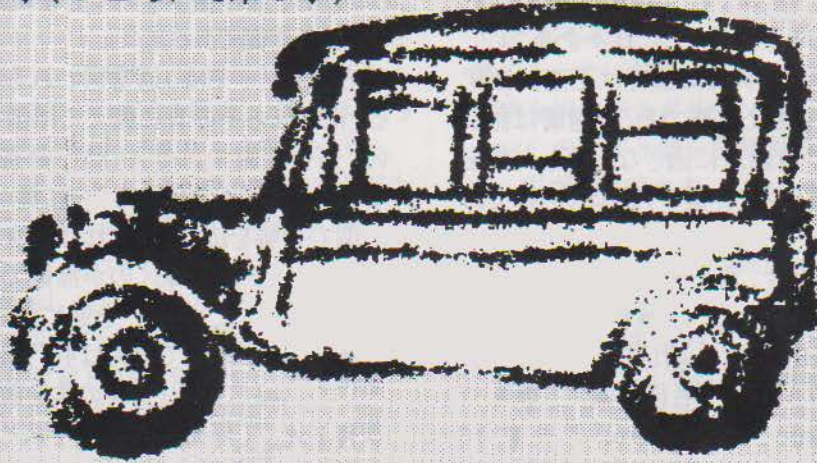




流星

第18号(OB会誌第5号)



目次

題字 河村 先生
イラスト 伊東 (44)

巻頭言・老前・老後	自動車部顧問	原田	(教授)	2
自動車を取り巻く情勢の変遷	OB会会長	松尾	(25)	3
主将挨拶・充実した自動車部生活を	責善会自動車部主将	国吉	(3回生)	4
活動報告・新年度活動計画				4
OB会連絡担当あいさつ		平塚	(3回生)	4
自動車部へ入部した動機と目的		延原	(専攻)	5
初めての大会		倉木	(3回生)	5
部車について		桑原	(2回生)	5
部員名簿・卒業者名				6
～総会特集～				
関東地区自動車部OB会開催報告		砂本	(39)	6
19年自動車部OB会総会開催準備スタート	関東地区副幹事	宮崎	(39)	7
特別企画・徳尾さんを囲む座談会				7
会員名簿				10
特別会員名簿				15
会計報告・決算・予算	会計部誌担当	嘉村	(33)	15
編集後記	会計部誌担当	嘉村	(33)	15

九州工業大学責善会自動車部
明専・九州工大自動車部OB会

還暦は耳順とも呼ばれるそうで、我流に解釈すれば、我を張らずに人のいうことが何でも理解できる素養を備えた歳ということになる。昨年その歳を迎えたが、小泉首相の影響が強すぎたのか、とても耳順の意味する心境にはなれず、毎日相も変わらず小言幸兵衛を演じつつ、悶々とした日々を過ごしている。いくら口が達者でも肉体の衰えは正直に自覚でき、つられて気力も萎え気味である。還暦は誰しも迎える定年直前の通過点に過ぎないが、人生を野球に喩えれば、第7回、終盤の入り口ぐらいであろうか。

平均寿命が延びた今、現年齢の7掛けまたは8掛けが昔の年齢に相当するとの解釈もあるが、還暦は鈴木健一元 NHK アナによれば、「老前の始まり(ちなみに老後は75歳)で、老後に備える準備の開始時期である。Samuel Ulmann は著書「青春の詩」の中で、「人は齢を重ねるだけでは老いせず、夢を失った時に老いを迎える」と述べている。昔30歳はお肌の曲がり角と女性化粧品のCMが流行ったが、還暦は人生の変曲点であることは確かである。

若かりし頃、「定年後、理系人間は文型人間より早く死ぬ。なぜなら文系人は夢を追いかけて、ロマンを持っているから定年を迎えても連続的であるのに対し、技術者は現実的でロマンがなく、定年を迎えると目標を失って生活も大きく変わり、変化に追従できない。」といった内容の話を何かの席で老教授から聞いた憶えがある。また、ある人から、「技術者は定年を迎えたからといって、ものづくりに対する情熱を急にシャットダウンするのは難しく、静に燃焼させ、徐々にクールダウンする期間が必要」という話を聞いたこともある。

還暦を迎えると誰しも定年後のことを考え、普通は宮仕への時にはできなかったことに色々挑戦し、実現しようと夢を馳せる。無論年金だけでは不十分で、現実には延長して働き続けなければ生活維持が困難というケースの方が多いかも知れないが、多くのサラリーマンは定年後の有り余る時間を如何に使うかを考える。人間は「自分は社会に必要とされている」と自覚する限り、頑張っ

て仕事を続ける。定年後に生き甲斐を自身で見つけ、作る、という段になると仕事人間には辛いことである。特に、理系人間は文系人間に比べ、自虐的反省を込めて言えば、単細胞的直情的生き方で、冗長性が足りない分、逃げ道が少ないと普段から自覚しておくことが安全側である。

そうになると、やはり通常言われるように、50歳になるとぼちぼちその日に備えて準備を始めたほうがよい。何を準備すればよいか、最善の方法は分からないが、普段から色々なことに興味を持ち、好奇心や関心の幅を広げ、できれば自身がよって立てるようなところを磨いておくのが無難である。「そういうお前はどなたのだ」と問いを逆に投げ返されると答えに窮するが、強いて言えば40代後半から自身の研究以外に幅広いジャンルの本を読むように心掛け、読書を通じて好奇心や関心を広めることに努めた。勿論自身の趣味が嵩じてしたことで、特別な目標を持って行ったことではない。これからはそれらを収束させていき、何かお役にたてることを見つけ、スロウダウンする予定である。

75歳以後の老後をどうするか。残念ならそこまで思いは巡らないが、孫に自身の生きかたを多少なりとも語り伝えることができればそれで十分である。昨今全国のいたるところで起こる痛ましい数々の事件を、規制緩和・構造改革推進による米国型自由主義経済を丸ごと導入し、日々の生活・教育・将来への夢・その他、あらゆることで勝ち組・負け組を作り、格差社会を出現させた現政府の責任にするのは容易い。政治だけでなく、人々の価値観の変化、ライフスタイルの変化、その他色々な要因が錯綜して影響しあい、従来の規範では律するのが難しい時代がきていることも確かである。

今後ともわが国が技術立国として持続的発展をとげるには、その前に綻びかけている教育立国の看板を修理しなければならない。拙稿を読まれる先輩諸氏のお力を結集して、教育再興のために利用できるようなシステムを構築することができれば、と老前の夢を見ている。

自動車を取り巻く情勢の変遷

自動車部OB会会長 松尾 (25)

皆様お元気でご活躍のことと存じます。今回のご挨拶は、少し真面目に考えました。

一般大衆が現在とほぼ同じ外観の自動車に乗れるようになったのは、フォードが1908年に発表したT型フォード以来といわれている。1913年には、自動車生産に初めてコンベヤラインによる流れ作業を導入し、工程を9分の1に短縮した。信頼性と低価格で爆発的な人気を獲得し、1年目で早くも1万台を販売し、最盛期の1925年には年間199万台を超える販売を達成したという。

ヨーロッパでも、英国、ドイツなどでT型フォードが生産された。また、この成功に刺激され、フランスのシトロエン、ドイツのオペル、イタリアのフィアットなど1919年頃には大量生産を開始し、自動車の大衆化に貢献した。

日本では、1926年、ダット自動車製造が誕生(1934年に日産自動車に改組)、1938年のピーク時には、小型乗用車ダットサンが月産800台の量産ペースに達した。しかし、第二次世界大戦により、自動車生産は停止した。戦後、本格的な自動車の量産が開始されたのは、1955年(昭和30年)、輸出が本格化したのは、それから更に5年以上後のことである。

乗用車大衆化の見地から、自動車生産の歴史を見てきたが、私自身、どのような係りがあったのかという切り口で考えてみたい。

私が生まれたのは1930年だから、今まで見てきた自動車の大量生産の年次からそんなに離れてはいない。また、私が運転免許を取得したのは1948年で、日本での量産は始まっていない。彗星に乗って、国道3号線を走っていても、1キロほどしないと対向車とすれ違わないというのんびりした状況だったとしても当たり前の話であった。もちろん、自分のお金で買うなど夢のまた夢の話であった。

さて、1950年に機械科を卒業したが、就職口が無い。仕方なく、叔父が経営する土建会社に身を寄せた。私の仕事は、イズズの5トントラックの運転手である。そのトラックは木炭自動車であり、木炭を燃やしてガス化する過程でのブロー回し、ガス発生器の蓋をあけて木炭を補給する時の小爆発による顔面の火傷、濾過器が一日に何度も詰って、川辺に降りての棕櫚製濾過体の洗浄、一酸化炭素中毒で倒れた思い出等々苦勞の連続であった。

1年ほどたって、新莊先生(自動車部部长)から古賀町にある西部電機を紹介して頂き、歯車を駆使した機械装置を設計できることになったのは、私の一

大転機であり、無上の喜びでもあった。

炭鉱用巻上機、コンベヤ駆動機などの設計を担当しているうちに、1963年のある日、工作機械設計グループと同道して、東京の某自動車メーカーに出張せよとの社命がきた。一連の工作機トランスファーラインを受注するための打合せ会議であった。技術力評価のために、自動車の差動歯車を切削するグリーンソン社製「レバサイクルマシン」の荒切り盤を開発製造することが条件となり、私が指名された。

この機械は、新莊先生から学生時代に聞いた事がある程度の知識しか無かった。現場でこの機械を見学して唖然とした。直径40センチ程の水平カッターが1回転3秒の速さで回る間に一歯が仕上がってしまうのである。16枚の差動歯車が1分に1個完成していく。ワーク油圧固定、切削、油圧解除、一歯割出し、ワーク油圧固定のサイクルを3秒でしななければならない。この機構には、ゼネバ機構が巧みに活用され、確実な運動を継続できる。誰も指導者がいない状況の中で、何とか完成できたのは、自動車部で毎晩しごいて頂いた諸先輩のお陰だと今でも感謝している。

次に、1965年から1967年にかけて、新莊先生の基本設計で開発した「まがり歯傘歯車歯切り盤」がある。自動車には、車輪の駆動歯車としてハイポイド・ギヤまたはスパイラル・ベベル・ギヤが使っている。自動車部品としては、本質的に作りやすく、手間がかかる部品である。これを量産向きに単純化して安く早く作れるようにしようと企画された。

基本構想としては、生産性が高く剛性が大きいハイポイド・ピニオン荒切り盤を製作した。自動車メーカーで実用の結果、在来機と比較して剛性が大きく、強力切削ができ、しかも、カッター寿命が伸びており、評判が良かった。本機は、1969年に日刊工業新聞十大新製品のひとつとして表彰された。現在、自動車は環境保護面、ガソリンの枯渇問題、生産のグローバル化、ハイブリッド車と燃料電池車との次世代エンジンの主役争い等々難題を抱えているが、日本のものづくりのリーダーとして、何としてでも頑張ってもらいたい。自動車と少しでも係りのあった者として大いに声援を送りたい。(社)技術士会会員 技術士(機械部門、総合技術監理部門)

充実した自動車部生活を

責善会自動車部主将 国吉 (3回生)

先輩の皆さまには、ご清勝のこととお慶び申し上げます。

私は、今年監督の 4回生の徳永 にかわり第65代主将を務める 3回生の国吉 と申します。

現在の自動車部は部員19人で、そのうち新部員は2名です。昨年の新部員7名に比べますと、今年は少し寂しい感じがしますが、少数精鋭で自動車部を盛り上げていきたいと思っております。

近年、テレビなどの影響で自動車部に入部する動機も様々でして、なかなか部員同士が一丸となって活動を行うといったことが少なくなったかに感じます。ラリー、ジムカーナ、ダート、ドリフト、スポコン等の各部員、自動車に対しての考え方が様々であります、それぞれの目標に向かってがんばっていますので、これもある意味自動車

部の一つのあり方かなとも思います。

私はもともとラリーに興味があり入部しました。先輩方や徳尾 さん、北九州オートクラブの皆様いろいろなご指導をいただき、はずかしながら今年から九州ラリーJrシリーズに参戦しております。現在のところシリーズの半分が経過しまして、自分自身の力不足をこれでもかというぐらい見せつけられておりますが、自分の力量も含めて、とてもいい刺激になっています。モータースポーツを通して、現役で活躍されている方々からお話を聞いたり、指導をしていただいたりととても充実した自動車部生活をおくらせていただいております。

今年は、主将として各部員が私のように充実した自動車部生活をおくれるように努力していきたいと思っております。

今後ともOB方のご助言、ご援助をお願いいたします。

部活動報告・新年度活動計画

2005・06年成績

ラリー

2005/3/19	クスコカップFMSC チャレンジラリー' チャレンジ05	2位
2005/4/23	JMRC九州ラリーチャンピオン シリーズ第1A2 MCA	4位
2005/6/11	JMRC九州ラリーチャンピオン シリーズ第3A2 第17回FMSC Mt R'05	4位
2005/7/16	JMRC九州ラリーチャンピオン シリーズ第4B2 KOC CROSS&EAGLE'05	3位
2005/10/15	JMRC九州ラリーチャンピオン シリーズ第4オープン V	1位
2005/10/22	JAF全日本ラリー選手権4輪駆動 部門第5 C M.C.S.C.ラリーハイランドマスタース	1位
2006/8/6	JMRC九州ラリージュニアシリーズ 第3戦 B FMSC SUMMRR ATTACK' 06	2位

ジムカーナ

2005/4/24	JMRC九州ジムカーナJrシリーズ第2B1 スーパートライアル in 三井2005	5位
2005/6/5	JMRC九州ジムカーナJrシリーズ第4B1 オートポリスエキサイティングジムカーナ	3位
2005/7/17	JMRC九州ジムカーナJrシリーズ第5B1 TeamCCSUジムカーナ2005	3位
2005/9/4	MRC九州ジムカーナJrシリーズ第6B1 BS杯TBK2005ジムカーナ	4位
2005/10/23	JMRC九州ジムカーナJrシリーズ第7B1 RASCAL2005ジムカーナ	2位 DLクラス6位

2006年 年次計画

4月	入学式・部員勧誘
5/13~14	ACK APRING RALLY
11/4~5	KIT NIGHT RALLY
11/24~26	工大祭
3月	追い出しコンパ・卒業式

OB 会連絡担当挨拶

平塚 (3回生)

この度、国吉(主将・ 3回)からOB連絡員を引き継ぎました、 3回生の平塚 と申します。

今後「流星」や、OB会に関する自動車部の窓

口は自分が担当いたします。よろしく願いいたします。

自動車部へ入部した動機と目的

延原

私は専攻科修了までの高専での7年間、その学校生活の中で多くの時間をバイクや自動車に費やしました。そのときに私は、多くの人達から自動車の部品を安く譲ってくれたことやサーキットの走り方などを教えてもらいました。私はこのとき初めて、共通の趣味を持つ人達と人脈を持つこと、つまり人とのつながりが非常に重要だと感じました。こうした経験から私は、九工大に入学しても自動車の趣味を続けたいと思っていたので、共通の趣味を持つ人達が多い自動車部に入部しようと思いました。

大学院の研究が忙しいことやドリフトをしてい

た車を売ったりもしたけれども、自動車部では、高専時代にしていたドリフトを自動車部で続けたいと思います。

北垣 (一回生)

自分が自動車部に入ったのは、自動車が好きでこれから自動車を持った時に自分で整備したいと思ったからです。まだあまり車について詳しくはないんですが、少しずつ勉強して知識をつけて整備を出来るようにしたいなと思います。また競技などにも出れるようになりたいと思っています。

迷惑をおかけする事もあるかと思いますが頑張っていきますので、よろしくお願いします。

初めての大事な仕事

倉本 (三回生)

自分にとってワンプアのC車両化は今までで一番大きな仕事でした。ワンプア委員長(部車委員長)として自分に仕事を任されたのは去年の11月頃でした。C車両化としての最初の課題はエンジン換装でした。

自分がまず考えたことは、早いうちにエンジンを交換してしまうことでしたが、うまく進まず時間がかかってしまいました。結果として4月頃に本格的な作業が始まり、エンジン換装とロールバー装着などの内装関係を同時進行になってしまいました。それからの2ヶ月は毎日があつてこ舞いでした。いつまでにこれをして、次にあれをして、そして今度の走行会に参加してテストをしてと、不安で仕方がない毎日でした。

途中で無理をしてC車両にしなくても、今度の学生連盟の大会はオープンクラスにしてもいいのではない

かという意見もありました。しかし、自分はC車両にこだわりました。理由は途中であきらめるのは負けたような気がしたからです。

テスト走行ではトラブルが起きないことを祈っていましたが、残念ながら起こってしまいました。当日の車検ぎりぎりまで車を作っていました。車検を受けてO.K.をもらった時はとてもうれしかったです。今までの頑張りが報われた気がしました。結果はボリでしたが、最高の1日でした。

今回は、北九州オートクラブの方に大変お世話になりました。そしてアドバイスをしてくれた先輩や自分についてきてくれた後輩と一緒に指揮をとってくれた同僚がいました。そんな人たちに心から感謝しています。ありがとう。

部車について

桑原 (二回生)

自分が部車に関わり始めて約一年経ちます。今まで多くの事を行ってきましたが、ここまで変えるとは思っていませんでした。主な内容として整備はもちろんの事ですが、カッティングシートでカラーリングすることやC車両化を行いました。

カラーリングを自分たちで考えたり、練習会に行くたび色々トラブルが起きてしまったり、学生連盟ジムカーナ大会直前は非常にドタバタしたりとあわただしかったです。なんとか今年の7月の学生連盟でC車両として参加することができました。今考えるとこの一年間キツイ時もありましたが、学生連盟にちゃんと参

加することができたのは嬉しかったですし、なかなか面白くもありました。

現在は自分が部車の責任者となりましたが、現状は部車にはまだ多くの改善すべき部分や問題が見れますし、この一年間それらの一つでも多く実行できればと思っています。部車は主に車を持っていない部員の為のものですが、是非とも車を持っている部員も作業に参加したり、練習会で乗ってもらったりして、部員皆が参加できる形をとれたらいいなと思っています。

作業を行う際には先輩方々に色々御迷惑をかけるかもしれませんが、その時は宜しくお願いします。

自動車部部員名簿(2006)

役職	氏名	年・学科	出身高校	役職	氏名	年・学科	出身高校
監 督	石塚	D2		夜 間 部 車	安部	3	
	田口	M2			石原	2	
	西野	M1			岩本	2	
	石丸	5			桑原	2	
	徳永	4			原島	2	
	泥谷	4			朝長	2	
	藤川	4			花本	2	
主 将	国吉	3		北垣	1		
OB・主務	平塚	3					
会 計	倉本	3					

卒業者名

犬丸

安倍

—総会特集—

関東地区自動車部OB会開催報告

砂本 (39)

関東地区自動車部OB会が、10月7日(土)14時より、鳳龍クラブにおいて開催されました。

関東地区副幹事の宮崎氏(39)の司会により進行、幹事の木村氏(36)の開会挨拶から、本会合の趣旨説明があり、来年関東地区の担当で、自動車部OB会総会(全国大会)が行われることの報告があり、その進め方として、実行委員会の設立を行いたい旨の提案がなされました。

次に、OB会本部の副会長を務められる廣田氏(電29)より、OB会の近況報告をいただきました。

続いて議事に入り、木村幹事より実行委員会の案の説明および全国大会の場所の候補の提案依頼が行われました。

種々議論の結果、実行委員会は

委員長 木村地区幹事

副委員長 宮崎副幹事

事務局(実行委員会の実質的業務を行う)

武地氏(51) 中西氏(50)

を中心とした実行グループを、本日出席以外の若手からも募って形成する。

ことで、とり進めることとし、開催場所については実行委員会を重ねて、地方からの交通の便のよい熱海のような場所にするか、東京都心のしかるべき場所にする等、検討して行くことにしました。

取り敢えず、第一回の実行委員会を、12月9日10時～12時の間で行うことを決定しました。

その後、懇親会に移り、岩本氏(24)の音頭で乾杯

出席者の近況報告・学生時代の自動車部活動の思い出話を順番に行い、来年の全国大会の成功を祈りつつ、会を終えました。

本日の出席者は以下の通り(敬称略)

24 岩本	29 廣田	33 中村
36 佐伯	36 木村	37 木島
39 横田	39 砂本	39 宮崎
39 浜田	40 木田	41 西岡
42 加藤	48 村上	50 中西
51 武地	以上16名	



関東地区総会風景06.10.7

19年自動車部OB会総会開催準備スタート

関東地区副幹事 宮崎 (39)

19年自動車部OB会総会の実行委員会が発足しました。

九工大自動車部OB会総会はこれまで平成15年九州地区で、そして平成17年には中京地区で開かれ、来年19年は関東地区の担当で開くことが、17年の総会で決まりました。そこで、去る10月7日・鳳龍クラブで地区OB会を開き議論検討の結果、下記実行委員会の設置が決まりました。実行委員長・木村地区幹事 副委員長・宮崎地区副幹事 事務局(実行委員会の実質的業務を行う)武地氏(51)・中西氏(50)また前記委員を中心とした実行グループ

を、本日出席以外の若手からも募って形成します。

総会の日時・場所については12月9日に開かれる第1回実行委員会以降で具体案が煮詰められますが、先日の地区OB会の議論の中でイメージとして出た案は、

実施日時:平成19年10月の土・日(1泊2日)

場所:熱海近辺、なお支障があれば都内も探す。

日程:役員会・総会・懇親会・翌日のオプション検討となっております。おって、正式な開催案内などお届けしますが、OB各位の積極的ご参加をお待ちしています。

— 座談会 —

徳尾三郎さんを囲んで・・・

・・・副題「ラリーに明け暮れた青春」

日時 平成18年9月17日17時～

場所 小倉北区:中国料理・鐘楼

出席者(敬称略) OB会特別顧問・徳尾
坂田 (54) 高橋 (58) 山下
(H1) 徳永 (監督・4回生) 国吉
(主将・3回) 司会・編集担当嘉村 (33)

司会 本日は台風13号接近のなかお集まりいただき本当に有り難うございました。昨日までの参加予定は16名でした。お集まりいただいたのは7名ですが、内容の濃いお話が聞けると楽しみにしています。まず自己紹介からお願いいたします。

徳尾 私は27年戸畑高校から明治大学に進み、夢はブラジルで、何かやりたいと思っていたが、思いがけず父の後を継いで自動車修理工場を任されることになった。在学中はあまりモータースポーツ(MS)そのものに触れる機会はなかったが、戸畑に帰ってきて、ラリーに関する資料を集めたり、九工大の学生や地域の MS とか拘わるうち、以外に好成績をあげ、「俺には才能があるのか」などと思い、チームを立ち上げ、次第に ACK の中心に据わるようになった。九工大自動車部とのかかわりは当時の藤原教授が KIT (デイ・ナイト)の指導に当たって貰えないかとお声があり、お手伝いをするようになった。私は在学中苦学をしたこともあって、九工大の学生で

乏しい資金で車をやりくりしているのを見ると何かと面倒をみていたようだ。

坂田 小倉高校から九工大に入り、卒業後は日本板硝子(舞鶴)に入社した。卒業後すぐには、ラリーなどで楽しむことは控えざるを得なかったが、一般社員がだめでも管理職はいいんじゃない?とばかり、ACK 関西支部を立ち上げたりにして、MS から縁が切れない。徳尾語録に「ラリーをやる人間に悪いやつはいない」があるが、まさにそう思う経験を何度もした。舞鶴から四日市、フィリピン、など各地への転勤を繰返したが、一応家族は相模原にいる。

山下 大牟田出身で、三池高校から工大に入学した。入学までに浪人、入学後も5年掛けて卒業し、就職は住友金属鉱山。その後日本磁力選鉱でマグネシウムなどのインゴットを作る仕事をしている。自動車部に在籍しラリーにかかわったことは、他では得られない貴重な人生経験をした。今でもラリーとは深くかかわり、これまでの走行キロは4千をこえる。

高橋 大分・舞鶴高校から、九工大に入った。

54年入学したが、4年生のときに事情で中退した。そのご大分の会社に就職したが、ラリーとの付き合いはずっと続いている。

大分でのラリーにはオーガナイザーとして、いまでも現役。在学中からラリーの主催者は、福岡、戸畑、佐賀のクラブでも、開催地は大分が多かったから、ラリーのコースは熟知している。仕事をしながらのラリー参加はそれなりに周囲への配慮と努力が必要だった。私は、三郎さんの歳までラリーを続けるつもりだ。

国吉 広島城北高校から、工大に入った。現在ラリー車を購入、まだ成績は残せていないが頑張りたい。

坂田 国吉君の父親は私の3期上で、(国吉・51)写真部に所属しラリーには必ず参加していた。写真部員にはラリー好きが多かった。

徳永 実家は水間で出身は筑紫が丘高校です。昨年は部をまとめるのに精一杯でラリーではあまり戦績はない。それでもこれからラリーを続け、卒業後も拘っていきたい。

徳尾 徳永君は良く頑張っている。OB会の総会に参加したり、東京の講習にも出席してそのつど報告にきてくれている。工大の自動車部とも、永いお付き合いになったが、途中にはKITラリーをやめたいと言い出す幹部もいた。止めるなら複数の先輩に相談し、OKが出たら、やめれば良い、継続は力なり、と言ったら実際にはやめなかった。KITデーラリーには娘がまだ小学生の頃から参加していた。

司会 本日の座談会は主題が「ラリー」ですので自動車部に在籍していた頃のラリーに関する思い出話などお聞かせ下さい。

坂田 まだ新人の頃、先輩が徳尾さんを指して「自動車部にとって、特別な方」と言われたが、しばらくしてその意味が分かった。入部のきっかけは近くにTDKの会長がいて、変わった車が置いたあって、興味がわき、入学式のとき校門から直接自動車部に行った。

ラリーにかかわって一番印象に残ることは当時大学2,3年生(20歳前後)でも重要な責任を持たされ、大人扱いを受けたことだ。それと人の輪が広がった。卒業後関東では、ACKの坂田さんですねと言われてうれしかった。全九州Fの新人戦で楨本君(54・日本航空)が1位をとったが、私も4トン部門で1位でゴールしたのにスタート地点でラインを踏んでいたとかで入賞を逃した。

山下 ラリーに出たのは3年のときで、もっぱらラリーを作る方が得意で、同期の元木君とはいいコンビだった。留年まで一緒。(笑い)ラリーJでは藤間・小川・御領などが頑張っていた。当時の遠征旅行に一緒だった仲間とはいまだに連絡を取

り合っている。最近ナビで参加するのに減量を中心掛けている。(たしかに重量級)

高橋 車に興味があったわけではなく、2万円で免許が取れると言うキャッチフレーズに惹かれた。入部後、車庫に集まり連れて行かれたのはダートコース、そこではあまり厳しい印象もなく、むしろこんなんでいいのかと勘違いしたのがそもその間違い。先輩や同輩は結構、授業と部活を上手に両立していたのに、「ラリーって面白い」とのめり込んだ。免許を取ったら佐賀大・九大などラリーで明け暮れた。

坂田 ラリーに参加した中で、ライセンスを持った3年生が重し代わりに後部座席に乗っていた。

ラリーを作るのは、会社で1つのプロジェクトを立ち上げるくらい総合的な要素があってその後、色々な役に立った。

徳尾 そう、今考えるとラリーには会社経営などに必要な総ての要素がある。現地見、現地の了解取り付け、コース作り、関係官庁への届出や許可申請、参加者へPR、説明、チェックポイント、事故、救護班等の準備と人員の配置、セレモニーの段取り、あと片付け、看板等の撤収等々一口ではいえない。

さらに、私は「安全」にはすべての精力を費やした。「参加車が無事にゴールインできないならラリーは続けない。」が私の信念だった。工大生など将来のある若者に汚点を残したくない。そのためにはかなり辛口の指導もした。

山下 卒業後、会社でラリーで培われた技術、知識が非常に役立った。

徳尾 私は鑑別所の職員のような哲学を一時理想としていた。どんな過去や、経歴でも導き方で必ずまともな道へ導くことができる。ラリーには失敗やトラブルはつき物で、それをどう処理するかが大切、と指導してきた。

司会 昭和30年時代にA・B・C・D免許という部内の規定があったが今はどうなってますか。

山下 私たちのころもそれはあった。トラックなどでアルバイト行くためにロープの「特殊な締め方」ができると級があがった。

坂田 英語の教授の引越して手際がよく感謝され、何かお礼をというから「月曜の遅刻(ラリーは殆ど土日)を大目に…」といったら、取引を言い出され、月曜遅れて教室に入ると「今頃ノコノ来る学生に授業を受ける資格はない！」と大声で怒鳴られた。実はこれは演技で、教授は今まで一度も学生を怒鳴りつけたことはなかったそうだ。

私たちの頃は各学年ラリー好きがそろっていて、ひとりの退部者もなかった。

山下 ラリーは3ヶ月前から準備にかかり1週間前には試走するなど準備が大変で、不測の事態も良くおきた。あるとき書類をざっと目を通しただけで競技長に提出したら、確認が足りないで大目玉を食らった。後々までも書類のチェックのたび思い出す。

高橋 車をつぶしては三郎さんのところへ持っていったが、よくカミナリが落ちた。三郎さんのお兄さんがいて、フォローしてくれた。

徳永 はじめてナビ席に座ったときはとまどった。あと、ラリーの車は物が車の中を飛び回ることを知った。

司会 ここで、写真を撮って、それからラリーにまつわる面白い話をお聞かせ下さい。

坂田 おろしたての車(中古)を磨いていたら、F1の坂井さん(52)がちょっと付き合え、と言って途中で工具とブルーバードのミッションを積み込み、阿蘇の外輪山へ連れて行かれた。そこには国吉さんの車がトラップしていて坂井さんが手際よくミッションを乗せ換えた。

別な話で、Tさんの運転する先導車がゴール500m手前で5mの崖をダイビング(初経験)した。助手席の私は着地のショックでシフトレバーに座ってしまった。以後痔と縁が切れない。(笑い)

ゴール地点の人たちから今度のラリーの先導員は歩いてゴールするのかと言われた。

山下 ラリーの最中に猪をはねて、ゴールしたら血がついていて、説明に時間がかかった。

坂田 猪も豚と同じで、はねると「ブヒッ」と鳴く。首藤さんが急に支障ができて代理で出たとき、後輩がタイヤを貸してくれたり、手伝ってくれた。

高橋 入部してしばらくはハンドルのすえ切りをさせられた。すごくパワーのある部員の後は、タイヤがへって、パワートレにならなかった。

坂田 自動車部は、他のクラブと違って先輩が後輩の面倒を良く見てくれた。ラリーのとき坂井先輩がブレーキパッドを交換してくれた。雪が先輩の顔に降り積もるんが感動的だった。

徳尾 坂井君の思い出の一つに、張り切って出発したのに、ガスタンクのキャップが紛失して、ガス切れ寸前で「お前帰れ」と帰ったことがあった。

坂田 「みやび」のマスターは「自動車部は真面目で好きだがダンス部は好きになれん」と云っていた。小倉の魚町で交通遺児救援募金をした。はじめ声が出なかったがそのうちで出て、人前で声を出す練習になった。町内の人が協力してくれた。

徳尾 メーカー以外に全国組織はなくACKの全国組織を目指して、山下・坂田君が頑張ってくれた。

坂田 10人のメンバーが集まらないので、家内を登録した。私の結婚も三郎さんに仲人をお願いした。

司会 お仲人をされた数は何組ですか。

徳尾 数えたことはないが20組前後かな。

坂田 チェックポイントで、ナビがカードを取るため、ドアを開けたら、車が崖っぷちに寄り過ぎていて、急に見えなくなった。崖下に落ちていた。

私がナビのとき、カードをもらって車に戻ったつもりが様子が違う。高価な機器が助手席についていた。わがチームの車は前に移動していた。

徳尾 自動車部OBは、みな優秀でみんなを集めて会社でも創ったら大会社になると思う。

年末にはみな工場に立ち寄ってくれる。子供たちは今でも「坂田のお兄ちゃん」と呼んでいる。

高橋 母校の車庫より三郎さんのところの方が寄りやすい。

坂田 母校の車庫に寄っても現役からは「なんだこのオッサン」という顔をされる。

徳尾 それは君たちが現役のとき先輩にそんな扱いをしていたからだよ。(笑い)

坂田 ラリーでなかなか三郎さんを越せなかったが、ケイさんがゴルフの素振りですら三郎さんに怪我をさせたと聞いて、「勝てる、よくやった。」と思った。

国吉 最近戦績があがっているので頑張りたい。

坂田 「ラリーに明け暮れた青春」というよりは「三郎さんに明け暮れた青春」だった。



徳尾さんを囲む座談会・06.9.17・小倉北区

ピックアップキャンペーン

自動車部に在部中、熱心に部活に励んだ仲間のおかげで、不本意ながら中退した部員も、立派な自動車部OBです。明専会の名簿にないため、OB会の名簿にもれているこうした仲間をみんなでOB会に参加するよう勧めてください。事務局へのご連絡をお待ちします。

自動車部OB会員名簿

2006.10.31

学科	卒年	氏名	郵便番号	住所	電話	E-mail

学科	卒年	氏名	郵便番号	住所	電話	E-mail
----	----	----	------	----	----	--------

学科	卒年	氏名	郵便番号	住所	電話	E-mail
----	----	----	------	----	----	--------

学科 卒年	氏名	郵便番号	住所	電話	E-mail

学科	卒年	氏名	郵便番号	住所	電話	E-mail

自動車部OB会役員名簿

本部	会長・松尾 (25)	副会長・中野 (25)	副会長・廣田 (29)
	事務局・会計・部誌担当・嘉村 (33)	会計監査・後藤 (28)	
九州地区	地区幹事・伊東 (44)	副幹事・桂 (H7)	
関東地区	地区幹事・木村 (36)	副幹事・宮崎 (39)	
中京地区	地区幹事・中野 (25) 兼任	副幹事・高橋 (38)	
関西地区	地区幹事・立松 (22)	副幹事・古河 (46)	

特別会員名簿

氏名	郵便番号	住所	電話番号
元部長	勝原		
"	藤原		
"	大西		
"	加藤		
現部長	原田		
特別顧問	徳尾		
特別会員	綿貫		
"	佐武		
"	山本		
	伊藤		

物故者名

不明者

自動車部OB会会計報告

17年度決算報告

06.12.31

18年度予算案

07.1.1

収 入		支 出	
繰越金		用紙料金	
会費寄付金等		「流星17号」経費	
総会費(中京地区)		総会費	
より繰入		事務費	
坂田様寄付		繰越金	

収 入		支 出	
繰越金		「流星18号」経費	
会費入金		ロッカー(中古)	
振替見込会費		事務費	
		繰越金(流星	
		19号経費を含む)	

一 編集後記一

平成15年名古屋でのOB会席上で副会長の中野 さんが「総会は2年に1回、各地区持ち回りで開いては」という提案があった。10月7日新橋・鳳龍クラブで開かれた関東地区のOB会で、19年自動車部OB会総会の実行委員会が立ち上がり、次期総会が関東地区で開かれることに決まったことは、喜ばしく、準備にあたる皆様に敬意を表し、成功を祈ります。

9月17日は、台風が九州北部を通過し、徳尾さんを囲む座談会は大荒れの中で開かれた。参加者いわく「ラリーに・・・」ではなく「三郎さんに明け暮れた青春だった。」

関東地区OB加の記事を載せたので発行がやや遅れました。

発行日 平成18年11月1日
 発行者 九州工業大学責善会自動車部
 主将 国吉
 明専・九州工大自動車部OB会
 会長 松尾

印刷

(株)印刷工房フジワラ

編集発送

事務局 嘉村

振替口座